



逆瀬川 あゆみだより

NO.221 2025.11
社会福祉法人
聖隷福祉事業団
逆瀬川あゆみ保育園
宝塚市逆瀬川 2-2-8
TEL0797-77-0415

急に朝晩の空気が冷たくなって、思わず「寒い！」と口にした10月後半。木々が色づくのもあつという間かも知れませんね。紅葉と秋ならではの味覚を是非、楽しみたいものです。

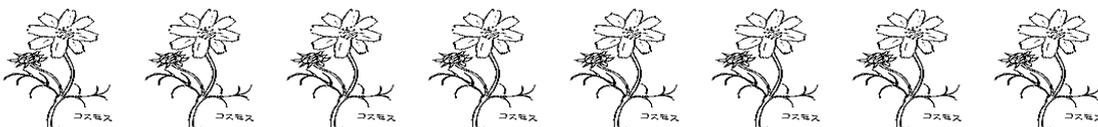
昨年と同様、10月の半ば、我が家では恒例になっている黒豆を求めて、丹波篠山まで行ってきました。毎年、同じ農家さんが出しているテントで購入しているため、農家の方も覚えてくれていて、何気ない会話も楽しみになっています。枝付きのものも購入し、家で孫と共に豆をはさみでチョコキチョコキ！孫達も茹でたての黒豆を「美味しい！」とたくさん食べていました。

休み明けは、ひつじ組と同じ作業を楽しみました。「茹でた豆をいくつ食べたいかを自分で決めて、お皿を持って並んでごらん」の担任の言葉かけに順番のトラブルもなく、ずっと並んだ子ども達。大人にとっては、何気ないごくごくあたり前の言葉ですが、子どもにとっては、自分で食べたい数を決める、お皿を持つ、並ぶ、数字の概念・・・こんなにも沢山の要素が入っていることに気づき、この春、担任が「大切なことをひとつ、お話するね」と繰り返し子どもが話に集中できるよう、自分で理解して動けるように言葉をかけていたのを思い出し、子ども達の成長を感じた瞬間でした。そして、次の日の活動中、昨日のことには一切触れていないのに、2人のひつじ組さんから「黒豆、美味しかったね。また食べたいね」と嬉しい言葉をもらいました。美味しい記憶として、残ってくれたら・・・と感じます。

五感（触れる・きく・かぐ・見る・味わう）という言葉はよく聞かれると思います。人間の子どもは、脳が非常に未熟な状態で生まれ、4～5歳ごろまでに、大人の9割くらいまで成長します。しかし、その過程で五感を通しての刺激がないと、脳は発達することができないとわかってきました。脳をバランスよく発達させるのは、子どもの五感を刺激することが必要なようです。

味覚については、本能的に好きな味と嫌いな味があるようですが、プラスイメージと結び付けて味を記憶させると有効なようです。味は、「楽しいこと」「嫌なこと」といった感情と共に記憶されるようなので、無理やりは「嫌な記憶」と一緒に味の記憶が蓄積され、「嫌な思いをして食べたもの」＝「嫌いなもの」になってしまうのです。したがって、子どもの好き嫌いをなくしていきたいと思ったら、「楽しいこと」とセットして味を記憶させることが効果的だといえます。そういう意味では、園でのクッキングは最適かも知れませんね。主にうさぎ組やひつじ組になってしまいましたが、クラスでクッキングをしている時の職員の盛り上げ隊は、思わず笑ってしまうくらい大人も楽しんでいます！（笑）食が細かったり、苦手なものが多かったりするお子さんもいますが、焦らず楽しい記憶を増やしていきましょう！それが、食を豊にすることに繋がっていくと願いつつ・・・

辻田 紀子



★クリスマス祝会について★



12月20日(土)

クリスマス祝会は、0・1歳児クラス、2・3歳児クラスの2部制で行います。

0・1歳児クラス9時～ 2・3歳児クラス10時15分～

クリスマス礼拝、降誕劇(人形劇)を子ども、保護者の皆様、職員と共に喜び日にしたいと思います。

子どもの集中力もありますので、短い時間ではありますが、是非、楽しい時間を過ごしましょう。

詳細は後日、お知らせ致します。



11月の予定

収穫感謝祭礼拝 4日

近隣への訪問 4日・5日

芋煮会(豚汁作り、ふるまい) 6日

礼拝 10日 17日 25日

内科健診 11日

～お願い～

★駐車場は園のお子様の送り迎えのための場所です。送迎以外(お買い物など)での駐車はご遠慮ください。また、全員の子どもたちが降園後は駐車場にチェーンをかけることになっています。駐車したまま外出されますと出庫ができなくなりますので、お気をつけください。

★送迎時、園庭で子ども達が遊んでいる時間はコーンを立ててあります。(これは子ども達の安全を守るためです。)その時間帯はコミュニティとの共有駐車場に駐車して下さい。駐車ができない場合は園にお電話ください。



お誕生日おめでとう



1名のおともだち

すくすくと大きくなあれ!!

良い羊飼い

「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。」

(ヨハネ10:11)

宝塚栄光教会牧師 岩間 洋



上掲のみことばは、キリストが弟子たちに語られましたみことばです。キリストはご自分を羊飼いに例えられました。羊飼いは、羊の群れを養い、正しく導き、敵から守る責任があります。オオカミや羊泥棒がやって来ると、羊飼いは命がけで群れを守ります。

私たちは羊のように弱い存在です。その弱さは、肉体的・精神的なものと言うより、霊的なもの、つまり内心の罪から来る弱さです。天地を創造されたまことの神を知らないということが起因する内心の罪は、私たちの魂を弱め、むしばみ、ついには滅びに至らせます。

そのような罪びとの私たちのために、キリストは十字架にかかってくださいました。良い羊飼いが羊のために命を捨てるように、キリストは、私たちの身代わりとして十字架で血を流して死んでくださいました。このキリストを信じることによって、私たちは罪と滅びから救い出されます。低い心で自分の罪と向き合い、柔らかい素直な心でキリストの十字架を信じましょう。そこから平安に満ちた生き方が始まっていきます。